

火山噴火予知連絡会における 火山噴火対策の検討状況について

気象庁 地震火山部火山課

平成26年12月24日

平成26年9月27日の御嶽山の噴火は、登山中の人々を巻き込み、多くの人命が失われた。今回の噴火を踏まえ、火山噴火予知連絡会*の下に二つの検討会を設置し、同検討会において火山の観測体制や情報提供について課題と改善策を検討し、緊急提言をとりまとめた。今年度末に最終報告を取りまとめる予定。

*文部省測地学審議会の建議（昭和48年6月29日）を受けて昭和49年6月に設置（事務局：気象庁）

検討体制

○火山観測体制等に関する検討会

- ・火山学者・専門家から構成。
- ・座長は、清水洋 九州大学教授。
- ・御嶽山の噴火を踏まえ、活火山の観測体制の強化について検討。

○火山情報の提供に関する検討会

- ・学識経験者、地方公共団体の首長、利用者代表等から構成。
- ・座長は、藤井敏嗣 東京大学名誉教授。
- ・登山者、旅行者等に対する、火山活動に関する情報提供のあり方を検討。



御嶽山山頂北側（平成26年9月28日15時30分）
（陸上自衛隊の協力により上空の海拔約3,600mから撮影）

これまでの経緯と今後の予定

平成26年

9月27日

御嶽山噴火

10月10日

火山噴火予知連絡会の下に検討会を設置することを発表

～11月28日

両検討会をそれぞれ3回開催

11月28日

検討会ごとに緊急提言をとりまとめ

12月 1日

中央防災会議 火山防災対策推進ワーキンググループで緊急提言について報告

・・・引き続き両検討会で議論・・・

平成27年3月（予定）

検討会ごとに最終報告をとりまとめ

気象庁に対する緊急提言の3つの柱

(その1) 火山活動の観測・評価体制の強化

【観測体制の強化】

- ・観測機器の設置
 - 火口周辺の観測強化（火口付近の変形や熱をみる）
 - 御嶽山の観測強化（マグマ噴火への移行をとらえる）
 - 常時観測火山の見直し（八甲田山、十和田、弥陀ヶ原(立山)）
- ・現地情報の収集
 - 速やかな機動観測班の派遣
 - 地元専門家・登山ガイド・山小屋等との連携

【評価体制の強化】

- ・気象庁における評価体制の強化
- ・評価プロセスの構築

(その2) 情報発信の強化

【わかりやすい情報提供】

- ・火山活動変化の評価に基づく予報・警報の発表又は更新
- ・火山に関する情報に用いる表現の関係機関との調整
 - 噴火警戒レベル1の「平常」の表現のあり方等
- ・「火山速報（仮称）」を創設
 - 噴火発生の観測事実を迅速、端的かつ的確に発表

【情報伝達手段の強化】

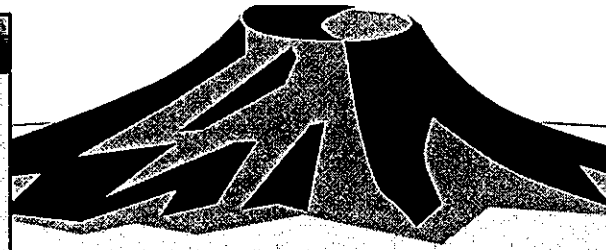
- ・地元自治体と連携した情報伝達体制の強化
 - 日頃から山と接している関係者と平素から情報共有
- ・携帯端末の活用
 - 具体的な伝達方法に関係する事業者と調整

(その3) 気象庁と関係機関の連携強化

- ・定期的な会議における活動状況の共有と防災対応の確認
- ・想定される火山活動の推移、情報発表及び噴火警戒レベル1からの対応を含む「火山防災対応手順」の検討と共有（噴火警戒レベルの引き下げ手順を含む）
- ・火山活動が変化した際の臨時会議の開催等による状況の共有と火山防災対応手順に沿った防災対応の実施
- ・噴火警戒レベルの引き下る防災対応の完了に至るまでの火山防災対応手順の共有

地域との日常的な連携

- ・各機関の火山の監視に関する連携
 - 気象庁、地元関係者（含む山小屋、登山ガイド）、火山専門家
- ・火山毎に火山情報共有システム
 - 観測データのリアルタイム共有



地元の取り組み

基本的な防災体制の強化

- ・ハザードマップの整備
- ・避難計画の策定
- ・避難訓練の実施
- ・避難施設、情報伝達施設の整備